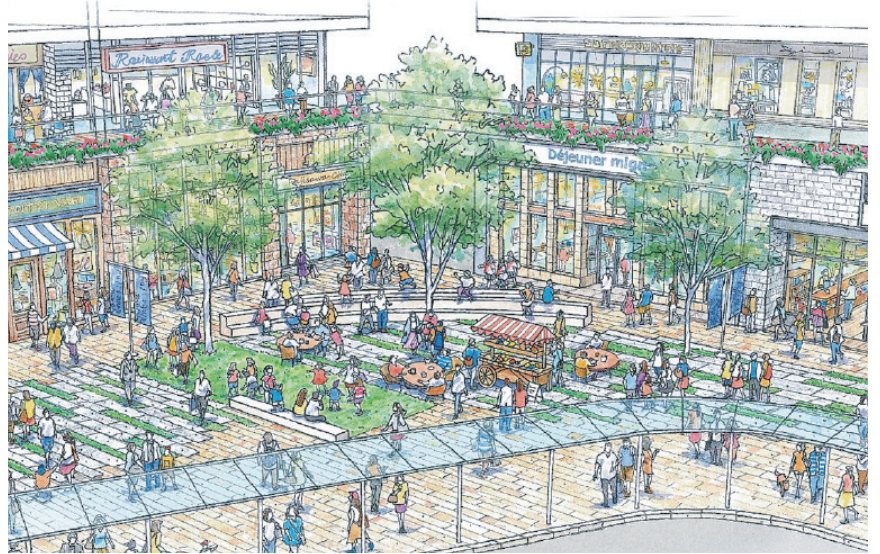


2023年より

藤沢駅南口再開発事業スタート

2023年から駅南口の再開発事業がスタートします。JRと小田急江ノ島線藤沢駅南口駅前広場を、周辺の老朽化ビルの建て替えに合わせ再整備します。既存ペデストリアンデッキを撤去し、同デッキを取り囲む民間ビルの建て替えに合わせ、将来的には複数の新建物を接続するようにデッキ機能を組み込む計画です。いくつもの事業が複合的に進められます。その景観も都市機能も、さらなる発展が期待されています。



【南口駅前広場 滞留空間の整備イメージ】
(藤沢駅南口駅前広場再整備基本計画(素案)から)



391地区市街地再開発事業

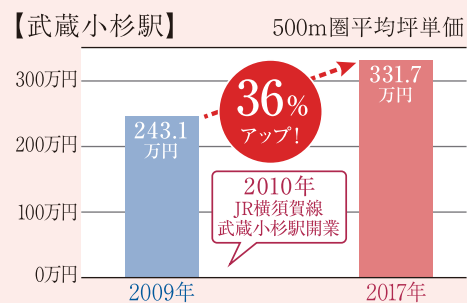
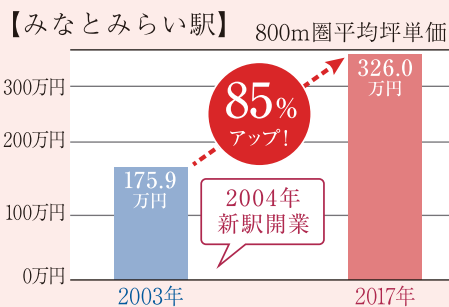
50年以上の歴史を持っている「フジサワ名店ビル」「ダイヤモンドビル」「CDビル」の3棟からなる391地区。計画では老朽化した3棟を解体し、地上17階(80m)の複合ビルに一体化。3年後の2025年春を目標に既存ビルを閉店し、解体・新築工事を経て29年度に竣工する構想です。建替え後のビルは地上17階、地下2階建てで、延べ床面積約3万6200平方メートル。

【提供】藤沢駅南口391地区市街地再開発準備組合
【注意】本イメージは計画用であり、今後の協議等により変更されることがございます。

■ 再開発事業が行われたエリアは資産性が高まる傾向に。

中心市街地活性化や駅前再開発など、全国各地で様々な再開発事業が行われています。再開発事業はその周辺エリアにも影響を及ぼし、事業終了後には開発以前と比べて地価が上昇する傾向にあります。特に駅前再開発事業が行われたその周辺エリアでは、「駅近立地」という人気条件にさらなる魅力が加わることとなります。資産的に考えても駅前再開発事業はプラス要素ではないでしょうか。

【坪単価推移の事例】



※通期PJ集計のデビュー年より集計(1R主力物件、定借物件を除く) ※武蔵小杉駅は東横線の駅を中心とした500m圏